



時事評論家 増田俊男

増田は事実と結果で判断する

「新型コロナの仕掛人は誰だ」と疑問が起き、いろいろな陰謀説が公共メディアで騒がれていることから、本誌、「こー一番!」、「目からウロコのインターネットセミナー」の皆様から私に陰謀なのか自然発生なのかと多くの質問が来ている。

正しく説明するには一冊の本になるほどいろいろな事実を述べる必要がある。

陰謀かどうかについての質問にはすべて「4月30日の無料インターネットセミナー」をご覧くださいと答えた。

本日すでに配信していますのでご視聴出来ます。(<http://movie.masuda-toshio.com/>)

今回の新型コロナのように世界に大きなインパクトを与えるようないろいろな事件が起きてきたし、またこれからも起きる。

誰にも「偶然」と思われる事件も時間が経つと「必然」であったことが分かる。

2015年から今回真珠湾攻撃の記念日昨年12月8日武漢で新型コロナ発症が起きるまでのビル・ゲイツ氏(ビル&メリンダ・ゲイツ財団)の行動と発言の「事実」と今日アメリカをはじめ世界が経験している「結果」を私情なしに、時系列で冷静に見ていると「何かが見えてくる」。

これは決して質の悪い憶測でも陰謀でもない。

当を得た「推測」である。

戦後から今日まで「リベラル国際秩序」と言われる評価軸があり、国家体制も国際活動もアメリカが主導する民主主義の御旗に従ってきた。

欧州では28か国(本年英国が離脱して27か国)の欧州連合(EU)が出来、あれほど自尊心と個性(アイデンティティ)の強い国々が統合に向かった。

新型コロナはアメリカから民主主義を奪い、欧州の国民が誇るEUを崩壊に導こうとしている。

そして花咲かじじいが灰を撒いて枯れ木に花を咲かせた「偽の経済」を葬り去ろうとしている。

ワールド・ミリタリー・ゲーム(10/28/2019)の前9/18に武漢国際空港で新型コロナ多発症を想定したシミュレーション活動が行われた。

同日(アメリカ時間)9/17にジョンズ・ホプキンス大学でアメリカの大都市に新型コロナが発症したことを想定したシミュレーションが米海軍大学と米政府細菌・国民健康危機管理局等50名の専門家によって行われた。

2015年ビル・ゲイツ氏は「世界はコロナウイルス対策をすべきである」と述べたことから武漢空港、ジョンズ・ホプキンス大学でのシミュレーションを支援していた。

2019年9月18日(米中両国がシミュレーションを行った日)ビル&ミランダ・ゲイツ財団が支援した英国の細菌研究所が新型コロナのワクチンの世界特許を得た。

ならば、新型コロナの感染が世界に広まっても、必要な時ワクチンを大量生産すればいいのでは?

こういう「事実と結果」から「偶然」を時を待たずに解明する力を「増田塾」で習得していただきたい。

<ワールド・ミリタリー・ゲーム>



<ジョンズ・ホプキンス大学でのシュミレーション会議>



「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスタ U.S.リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313）までお知らせ下さい。